ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成30（2018）年
８月１８日発行
第１２号

夢のふくらむ学校

長い夏休みも終わり、いよいよ後期授業が始まりました。皆さん、旅行や一時帰国など思い思いの夏休みでリフレッシュされたことと思います。今日からまたがんばりましょう！

母語について～ジョン万次郎の足跡を訪ねて



５３才ころの万次郎

個人的な話で恐縮ですが、かねてから興味があった**ジョン万次郎**が暮らした町に、夏期休暇を利用して行ってきました。車で４時間ほどのところにある、マサチューセッツ州**フェアヘブン**という町です。ご存じの方も多いと思いますが、ジョン万次郎について簡単に紹介します。

万次郎は、現在の四国の高知県の中浜という漁師町で生まれ、１８４１年（天保１２年）１４歳の時に、漁師見習いとして漁船に乗り込みますが、程なく嵐に遭って船は航行不能になり、５人の仲間とともに太平洋に浮かぶ鳥島という無人島に流れ着きました。鳥島で食うや食わずの苦しい生活を続けること１４３日、通りかかったアメリカ合衆国の捕鯨船ジョン･ハウランド号に救助されました。船長の**ウイリアム・Ｈ・ホイットフィールド**は、万次郎の聡明な資質を見抜いたのかアメリカに連れ帰って教育を受けさせることを提案し、万次郎もそれを受け入れました。紙数の都合もありますので、その後の波瀾万丈の万次郎の人生は、各ご家庭でお調べくだされば幸いです。

ホイットフィールド船長が帰ったのが、マサチューセッツ州ニューベドフォードという大捕鯨基地から入り江を挟んで向かい側の小さな村、フェアヘブンでした。

フェアヘブンには、万次郎が住まわせてもらったホイットフィールド船長の家や３Ｒ’Ｓ（いわゆる「読み書きそろばん」）を学んだ小学校や航海術等の専門知識を学んだ専門学校の建物など８か所が残っており、「**万次郎トレール**」として回ることができるよう整備されています。日本語のサイトもあります。機会があれば是非訪ねてください。（http://www.whitfield-manjiro.org/）



万次郎が暮らした船長の家

さて、１１年ぶりに帰国を果たした万次郎は、２年にわたる取り調べの後に、ふるさとの母の元に返ることができました。しかし、ここから、万次郎にとって思いもかけない人生が始まったのでした。

幕府は、アメリカ合衆国海軍ペリー提督に開国の決断を迫られますが、英語に精通したジョン万次郎がここで抜擢されることになったのです。それまでは、海外から帰国した者は、外国のスパイと見なされ軟禁状態におかれるか、最悪は死罪となっていました。通訳となるべく江戸に上がった万次郎は、旗本に取り立てられて名字帯刀を許され、ふるさとの地名をとって中浜万次郎と名乗ることになりました。そして、日米修好通商条約の締結に尽力しました。



万次郎が３R’Sを学んだ学校

しかし、ここに大きな問題がありました。確かに万次郎は、英会話や航海術に関する知識は持っていましたが、**法律用語については、苦労したと言われています。アメリカ艦隊の提示した英文を適切な日本語に置き換える作業が、予想以上に難しかったということでした。さらに、漁師出身の万次郎は日本で学校はおろか寺子屋にも通ったことがないので、武士階**

級の言葉や日本語の法律用語などは分からず、全く一から勉強しなければなりませんでした。周囲の役人達からの身分差別意識に満ちた言動もあったといいます。

同じことは、同じく遭難してアメリカの商船に救助され、アメリカで教育を受けて米国籍を得た**ジョセフ彦（浜田彦蔵）**にも言えることでした。彦蔵も貧しい漁師の家で生まれ、小さいときから家のために働いていたので、基礎教育などは受けていませんでした。アメリカで高等教育まで受け、帰国後は横浜のアメリカ領事館の通訳として働くようになり、改めて法律用語などの日本語に手を焼いたということでした。（その後は、日本で初めての新聞を発行しました。）


ジョセフ彦

ひるがえって、補習校では日本の教科書による教育を日本語で行っています。ジョン万次郎やジョセフ彦の事例からいえることは、これまでも折に触れて申し上げてきたことですが、「**母語**」を習得することの大切さではないでしょうか。補習校の子どもたちには、バイリンガルとしてグローバルに活躍できる素地が十分にあると思います。そのためにも、日本語なら日本語、英語なら英語を母語としてしっかりと確立しないと、その言葉そのものも生かすことはできないと言うことです。

ニューヨーク補習授業校では、夢の実現に向けて自己のアイデンティティをしっかりともち、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。そのために、毎週金曜日の夜、眠い目をこすりながら補習校の宿題に取り組んでいるお子さん達に、熱いエールを送りたくなります。

ようこそニューヨーク補習授業校へ！！

前期末で３７名の仲間が補習校を離れていきました。そして、日本から来てまだ１か月とたっていないお子さん、国内の他都市からＮＹに移ってきたお子さんなど、３５名の新しい仲間が加わりました。現地校と補習校の掛け持ちは大変ですが、そこから得ることもたくさんあります。はじめは緊張するかもしれませんが、補習校でも現地校でも皆さんを温かく迎えてくれるはずです。みんな、はじめはそうだったのですから、皆さんの緊張感にはすんなり共感できるのです。どうか、たくさん仲間を作って、楽しい補習校生活を送ってください。現地校での体験や悩みなども共有できますし、よい解決策が見つかるでしょう。

週に１回の補習校ですが、日本の学校と同じ感覚で、仲良く学校生活を送ってください。

NEWS！！



宇宙飛行士　野口聡一さん講演会のお知らせ

下記の要領で、ＬＩ校・W校中高等部対象の講演会を開催いたします。広く保護者の皆様にもご来場いただきたく、ご案内申し上げます。聴講は無料です。

記

１　日　時　平成３０年９月８日（土）１０：３０～１２：００
２　場　所　W校オーディトリアム（６００人収容）
３　その他　ＬＩ校生徒・希望する保護者はスクールバスで往復します。（保護者の方は自家用車も可～芝生の第２駐車場）